

不用品持ち込みでポイント／週末も利用可

無許可の不用品回収業者が廃棄物を放置することで起る環境への悪影響が問題視される中、リサイクル業の平林金属(本社・北区下中野)が始めた、新形態の不用品回収システム「えこ便」が注目されている。車などで気軽に立ち寄れる街中の店舗に、費用をかけずに週末にも不用品を持ち込むことができる利便性の高さが特長。回収対象も幅広く、ためたポイントで商品と交換できる。これまでに岡山、鳥取両県で計3店舗を開き、2016年度のグッドデザイン賞を受賞するなど、評価を上げている。

〔林田奈々〕

平林金属の「えこ便」

消費者と直接取引

センターもあるが、利用できる時間が平日の朝夕のみだったり、回収に料金がかかったりする場合が多く、多くの資源が無許可の業者に流れる実態がある。資源リサイクルを本業とする同社は、「正しいリサイクル」について多くの人に知ってもらい、「リサイクルの輪」に加わってもらうことを目的に、街中に正規の店舗を構えることで、消費者と直接、不用品が取引できる「えこ便」構想を固めてきた。

第1号店として15年7月に、北区西古松1に旗艦店の西古松局を開いた。建物は、ガソリンスタンドやファストフードなどのドライブスルーを思わせる形態で、車で来所しやすいよう設計されている。街中にな

街中で気軽にリサイクル

じむようスタイリッシュな外観に、ポップなロゴマークなどを配し、「ごみにつきま」という暗いイメージを払拭する。

回収対象は幅広く、平日に定休日を設けているが、週末もオープン。平日も午後7時までの利用が可能。回収するのは、パソコンや携帯電話などのデジタル機器、電子レンジや炊飯器などの小型家電から空き缶や古着、古紙類などさまざま。

利用者は、まず受け付け

と、ポストに設置された計量器が資源の種類と重量に応じたポイントを出し、ポイントカードに計算され、一定のポイントがたまる商品などと交換できる。回収された資源は同社の工場に集められて再資源化され、素材メーカーに卸される。

手軽に不用品が処分できるうえ、ポイントもたまることから、地域に急速に浸透した。西古松局では、オープンからの1年半で会員数が1万4000人を超え、平日の利用者は20

「生活圏に1店舗目指す」

でポイントカードを作成。その後、操作パネルの画面にポイントカードをかざして認証させる。持ってきた資源をスタッフに手伝ってもらいながら種類ごとに分かれていくポストに入れる。

0〜250組、土日はその倍ほどが訪れるという。えこ便事業部の片山次長は「予想を上回るペースで利用されている。お客さまのロコミで利用が広がっており、ニーズの高さを実感し

ている」と手こえを語る。啓発活動にも力を。同社は昨年9月、えこ便の利用者336人を対象にアンケートを実施。「軽トラックや空き地、チラシなどを活用して」と話している。

16年4月には鳥取県米子市安倍に安倍局が、16年12月には南区並木町2に並木町局がそれぞれオープン。今後も店舗の数を増やしたいと考えて、片山次長は「生活圏内に1つ店舗がある状態を目指して話している。



機械に専用のカードをかざし、不用品の投入が終わるとポイントがつく



「えこ便」の1号店としてオープンした西古松局。周囲の景観を損なわないよう建物のデザインにこだわっている平林金属提供



持ち込まれた不用品は種類ごとに決められたスペースへ持ち込まれた不用品の分別を手伝うスタッフ
提供写真以外はいずれも南区並木町まで



利用開始時にカウンターで専用の「えこ便カード」を作ってもら